

令和7年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校			
建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおりて、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域の方々から応援してもらえるような学校を目指す。
学校 教育目標	挑戦力 信頼 継続力 常に挑戦する強い気持ちと思いを持って取り組み。目標に向かいやり続けることができる力をつける。人間力を磨くことにより、生きる力を身につけ、信頼される人を目指す。	今年度 重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着
			2. 基本的生活習慣と規範意識の確立
			3. 安全・安心な学校生活空間
			4. 地域に信頼される教育・地域の人に愛され応援される学校づくり
			5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連 分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者 評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に 学びに向かう姿勢の 定着	教務	ICT活用などのアクティブラーニング等での授業改革。クロームブック活用による家庭学習推進。	新課程以来、教科の評価方法は確立してきた。後は、教科における様々な取り組みを充実させる必要がある。それらの量や回数、および授業の進度を十分に確保することが課題である。	授業におけるICT活用を促進し、生徒の学習効果を向上させる。生徒のクロームブック活用場面を増やし、家庭学習を推進する。	令和8年度入学生から教科書の改訂が行われることに合わせて、教科書・副教材を見直し、ICT教材を充実させ、その活用に向けて授業改善を進める。教科内および教科を横断した意見交換を促すための学習会を実施する。					
	進学	進路保障を担う進路指導の充実	昨年度の四年制大学・短期大学・専門学校への進学した生徒は146名となり全体の76%に値する。そのうち、看護専攻科に進学した生徒を除けば、74%が県内外へ進学していったことになる。受験した選抜方式は総合型選抜56%、学校推薦型選抜53%、一般選抜22%であった。	昨年度も総合型選抜や学校推薦型選抜を受験し、年内に進路を決定する生徒が92%を占めていることから、実態に合った指導が求められる。生徒の特長に合った選抜方式を考え納得のいく進路を確保	なりたい自分の姿を想像させ、それに近づくための適正診断や自己分析等を行うことで自己理解を深めていく。志望校から受験校へ変わって行く中で、具体的な受験対策として学力の向上はもちろん志望理由書の作成や面接・小論文の対策を行って自					
	就職		今年度は2年次で就職を希望している生徒へのセミナーはインターンシップを実施するための事務的作業の時間しかとれない。3年次の就職セミナーでは各自の目標に向け共通項を見出し、対応している。	公務員希望者には公務員対策講座や公務員模試に取り組ませることで力をつけさせる。3年次セミナーでは就職対策を実施する。	3年次セミナーにおいて職業適性検査等を実施し、就職試験対策を行う。6・9月面接指導では良いアドバイスを提案できるよう個々の教員の指導力の底上げを図る。また、外来講師を招いての就職アドバイスや面接指導を実施する。					
	情報・広報	BLEND機能の積極的活用とクロームブック利用。	導入から3年経ち、授業では積極的に活用されて始めている。しかしながら授業以外のホームルーム活動や探究活動においての活用場面が少ない現状がある。	ホームルーム活動での利用向上に向けて学年への利用推進研修を実施する。	ICT機器をクラス朝礼での活用推進を研修を通して実施する。探究学習や部活動など課外活動での活用を推進したい。そのための研修を実施する。					
2. 基本的生活習慣 と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	生徒の出欠状況を、校務支援システムのBLENDへ入力する際に、入力漏れや間違いがないように、関係部署で連携を取っている。備考欄に必要な記載がされていない状況も見受けられる。	担任・学年部長・授業担当者で連携し、出欠状況と備考欄の記載を徹底する。欠時数が増える傾向の生徒・保護者へ早に連絡する。	担任が1日の終わりに全ての出欠が入力されているか、間違いや変更がないか点検する。学年部長が、各クラスの点検終了を確認し、出欠一覧表を教務部に提出する。教務部においても担当を設定し確認する。					
	生徒指導	校内外における社会的規範意識の確立	SNSでのトラブル、対人関係でのトラブルが多くを占めている。	生徒が主体的に考えてモラルを持った行動を実践する。また、良い人間関係を築くことができるようになる。	年度初めの「ネットモラル教室」でネット犯罪被害防止やSNS上でのトラブル防止などについて、強く訴えかけていく。					
3. 安全・安心な 学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成と人権を意識した他者理解。	心ない言動によってトラブルに発展したり、周りが我慢をしなければならないケースがある。また、近年では異なる文化や価値観を持つ生徒も増えてきつつある。	学校生活アンケートやhyper-QUを実施する。人権LHRでは、各担任に趣旨を理解し、実生活に結びつくような展開を心がけてもらう。	hyper-QUや昨年度、改訂した学校生活アンケートを利用することによって、生徒が発信できる機会を増やす。外国にルーツを持つ生徒や多様な価値観の生徒も増えているので、正しい対応ができるよう教員が学ぶ。					
	環境美化	SDGsの理解や環境教育の推進	校内外で環境を意識し、物を大切に使うことや公共の場の美化に努める行動が無意識にとれるようになる。	ゴミの分別等にとどまらず、地球温暖化、レジ袋を減らす等、ポスターの作成などで啓発活動を行う。	個人の考え方による意識の差が大きく、なかなか徹底されない。掲示物等を利用し何度も何度も繰り返し呼びかけが必要。					
	事務	施設の整備・点検	・施設の老朽化により、危険箇所等がある。 ・長年これが当たり前と思ってきた駐車場の大幅変更。	・安心・安全な施設を目指す。 ・駐車場の安全確保。	・日々の開錠作業・見回り等で危険箇所がないかを確認。 ・誰が来ても、わかりやすく安全な駐車場を目指す。					
4. 地域に信頼される 教育・地域の人に愛され 応援される学校づくり	総務	保護者や振興会との連携	教育振興会の活動について、執行部役員を中心に年間計画を立てた。その実施に向けて、4部会それぞれが準備に取り組んでいる。また、本校教育についてアピールするため、生徒募集関係行事の企画立案を進めている。	保護者参加の企画を実施し、学校と関わるができる機会を確保する。これにより、本校教育についてご理解いただき、協力体制の強化に繋げる。	教育振興会の活動について、機関紙「北振」の作成、登校視察、交流会等の各行事の実施を通じ、保護者との連携を強化する。また、オープンスクールや学校説明会開催の周知に努め、その実施内容を充実させることで、本校教育について広くアピールする。					
	情報・広報	情報発信の強化	ホームページが古い形式のままである。内容の整備もされていない現状がある。	ホームページの一新を行い情報を伝わりやすい形式にする。SNSの更新頻度を上げて、中学生や地域に向けて日々の学校を発信していく。	ホームページの一新を年度中に実施する。オープンスクール等の対外的な活動にSNSを最大限に活用していく。					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われる予定である。	地域からの活動依頼に積極的に応えると共に、本校発案の活動にも取り組んでいく。	あいさつ運動の実施や地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	あいさつと、交通マナー(ヘルメットの着用)を目的とした門前活動は保護者、生徒会、地域の方と協力して行っている。	交通マナーのしっかり守り、事故を防ぎ、地域の児童や人々と気持ち良いあいさつを交わしていくことができる。	毎朝、教員が門前指導において、あいさつ運動、服装や交通マナーの指導を含めて行っていく。指導部もヘルメット着用の指導や自転車置き場の整備を実施する。また、マナーアップさわやか運動では、生徒会と地域の方々、保護者と協力してあいさつを交わしていく。					
5. 特色ある教育の 推進	看護	医療・福祉機関との連携	・生徒は高校2年次より臨地実習のため医療福祉施設との連携も重要となってくる。 ・効果的な学習や、地域で暮らす人々を支えるために引き続きの調整が必要である。	・臨地実習が効果的に行えるよう実習施設と連携を図る。 ・看護師国家試験 全員合格をめざす。	・体調管理の習慣化 ・カンファレンス等、臨床指導者との連携をはかる。 ・日々の学習、実習記録の練習など臨地実習にむけての学習の充実をはかる。 ・国家試験 模試の効果的な利用、模試後勉強会の実施					
	探究学習	地域や環境分野などの課題への取り組み。生徒の興味関心からの探究学習。	1年次は、職場体験などを通して課題探究を行う。 2年次は、地域・学問などそれぞれの興味関心に応じた探究を行う。 3年次は、最終発表・まとめを行う。	地域の企業や団体に協力していただき、課外活動を行う。ボランティア活動やフィールドワークなどの現地活動を行う。	・コース横断型のカリキュラムの立案・作成を行う。 ・地域の企業や各機関と連携し、探究活動が行えるように計画をする。 ・探究発表会を計画し、生徒の学習成果を披露する場を設ける。					

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C: 取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である